椅子

日差しの射し込む広々とした部屋
そこにあるのは、ただ一脚の椅子
直線のみで構成された世界
その交点へと視線が吸い込まれてゆく―――そのとき
影が振り向く
鮮明なまま薄められた影が

形の無い自負が誕生する
その故にこの胸の奥に
消えることなく留まるであろう自負が―――
積み重ねられ畳まれてきたあらゆる体験をも
推進力としてしがみついてきたあらゆる論理をも
一瞬で蒸発させた、正にその時空にて

　　昆虫の翅(はね)のように透きとおった意思が
　　大気を抱く

あらゆる予感が交錯するが、しかし
静かに閉じられた視線を
それでいて開かれた眼差しを
そよとも揺らすことはできぬ

見たこともなく
聞いたこともなく
触れたこともない
そのような慄えが準備される

　　共鳴する鼓動が呼びかけ合うのが聞こえる

私は椅子に腰掛ける

(2008.11.18)